

2025 年度・大学院 FD 活動報告

2025 年度における大学院の FD 活動は、修士論文の指導体制を整備・強化していく方針を基に、下記の活動を実施した。

1. 基礎的学修スキルの育成

(1) 活動内容と成果

2024 年度より開始した「研究方法論演習」において、前年度に検討した課題を踏まえ、さらなる改善を実施した。**特に AI ツールを活用し、論文サーベイの方法、そのメリット・デメリットおよび留意点について整理した。**担当教員が授業で扱う内容を共有するとともに、学生の反応や学習状況について報告を行い、他の演習担当教員との間で情報共有および意見交換を実施した。本 FD 研修会は、後期から開始される各演習の充実にに向けた基盤形成につながった。

また、**9 月実施の FD では、修士論文執筆に必要な情報収集方法、文献引用の方法、フォーマット等の形式面について、統一的な取扱いを示す指導要領**の作成を検討した。

(2) 評価

従来は各演習担当教員が個別に行っていた指導内容について、大学院全体として統一的に指導する体制の基盤が整いつつあると評価できる。また、修士論文の審査基準を踏まえた指導要領作成に向けた検討を進めることができた。

2. 研究指導力の強化

(1) 活動内容と成果

指導教員が**学生の研究計画指導、論文執筆支援、研究倫理教育を的確に実施できるよう、**教授会後の FD において**事例共有**を行った。加えて、**複数指導体制の導入を検討し、教員間の連携および情報共有を促進した。**

特に、**前期（6月）の「研究計画発表会」および後期（10月）「中間報告会」**の開催により、各領域の教員間で学生の論文進行状況を共有し、改善意見を出し合いながら指導を行った。その結果、修士論文の完成度向上につながった。さらに、1月には年度総括 FD を実施し、主査・副査の決定方法や論文最終修正期間の設定等について議論を行った。た。

(2) 評価

複数指導体制の導入を検討し、教員間の連携および情報共有により、今年の修士論文の完成度から効果を確認できた。

3. 学生ヒアリングの実施

(1) 活動内容と成果

学生構成の多様化、とりわけ**外国人留学生の増加**を踏まえ、教育内容および方法の見直しを行った。前期（6月）には大学院担当教員と院生による意見交換会を実施し、学生-教員混成のワークショップ形式で議論を行った。

多くの学生から、少人数制や反転授業形式、発表・討論を通じて「学ぶ楽しさ」や「自己成長の実感」を得ているとの意見があった。また、1 年生共通科目「研究方法論演習」については、修士論文執筆に必要なスキル（情報収集、文献引用、フォーマット等）について、AI ツールを活用しながら効果的に学習できているとの評価を得た。

一方で、専門領域によって難易度の感じ方に差が見られることが明らかとなり、専門科目担当教員間で基礎知識の共有および指導方法の調整について検討を行った。

（2）評価

学生との意見交換を通じて、カリキュラムの科目配分や履修状況に関する実態を把握することができた。また、留学生への対応を含め、教育内容および方法を柔軟に見直すための重要な示唆を得ることができた。